

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成28年3月3日(2016.3.3)

【公開番号】特開2013-226543(P2013-226543A)

【公開日】平成25年11月7日(2013.11.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-061

【出願番号】特願2013-62344(P2013-62344)

【国際特許分類】

B 0 1 J 29/46 (2006.01)

B 0 1 D 53/94 (2006.01)

F 0 1 N 3/08 (2006.01)

F 0 1 N 3/10 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 29/46 Z A B A

B 0 1 D 53/36 1 0 2 C

F 0 1 N 3/08 B

F 0 1 N 3/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月15日(2016.1.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

このように、高濃度の $\text{SO}_x$ および $\text{NO}_x$ が存在し、排ガス温度が低い船舶用機関から排出される排ガスの浄化処理で、アンモニアSCR法による脱硝触媒を使用するには、硫安の析出温度を排ガス温度以下にする必要がある。硫安の析出温度は、 $\text{SO}_3$ 濃度と $\text{NH}_3$ 濃度で決定される。 $\text{NH}_3$ 濃度は排ガス中の $\text{NO}_x$ 濃度と目標脱硝率で決まるため、この値を低減することはできない。従って、排ガス温度が硫安の析出温度より低い船舶用機関では、還元剤として使用するアンモニア( $\text{NH}_3$ )を吹き込む前に排熱を利用して、排ガス温度を再加熱して硫安の析出温度以上にすることで、アンモニアSCR法による脱硝触媒の使用を行っている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

本発明による燃焼排ガスの浄化方法は、燃焼排ガスの浄化方法であって、- 7 以下のハメットの酸度関数 $H_0$ に相当する酸強度を有するナトリウム型ゼオライトに水素およびコバルトを担持させた脱硝触媒に、還元剤としてアルコールを添加した燃焼排ガスを、180 ~ 300 の温度において接触させることにより、排ガス中の窒素酸化物を除去することを特徴としている。